今回で、先生!シリーズも一三巻を迎える。

一三巻ということは一三年ということだ(毎年一冊書いてきたので)。

オギャーー、と生まれた子が中学一年生になる、あるいは、小学五年生だった子どもが、二

四歳の社会人になる!ということだ。うん、これならわかりやすい。

うものだろう(なぜ、それが道理か? とかは深く考えてはならない)。 また地道に続けている研究の対象の一つであるニホンモモンガに関する話をするのが道理とい そういうこともあり、この「はじめに」では、**「続けること」の大切さ**を感じながら、これ

ちなみに、ニホンモモンガとは言っても、生の、本物のモモンガについては、この後の「本

文」のなかでお話しするので、ここでは、本物ではないモモンガの話をさせていただきたい。 ようとして始めた芦津モモンガプロジェクトでの「モモンガグッズ」などがそうである。 「本物ではないモモンガ」………、たとえば、モモンガの生息地保全と地域活性化を結びつけ

ではないモモンガ」のお話をしたい。 でも、それについてもこれまで何度かお話ししてきたので、ここではちょっと違った「本物

た芦津のモモンガの商品」である。 ずばり、「ゼミ生への愛をこめた、モモンガの顔をつけられた土産」と「独り立ちしていっ

·ゼミ生への愛をこめた、モモンガの顔をつけられた土産」のほうからいこう。

空港のなかで、ゼミ生に買って帰ってやろうと思い、お土産店に入った。そしたら、運命の出 忘れもしない(どんな仕事での出張だったかはばっちり忘れているが………)。東京の羽田

合いがあったのだ。

な(じつは、中身がなんだったか忘れてしまった)、とにかく高価な(ウソ。お手ごろ価格 それは、表側に「SMILE TOKYO」と書かれた、クッキーのようなワッフルのよう り、夜、大学に立ち寄ったとき、ゼミ室に置い

でくれるに違いない」と思いなおし、

鳥取に帰

なものを感じたが、「イヤ、ゼミ生たちは喜んしてもいいのだろうか」、と一抹の恐れのよう

瞬、「市販の(!)お土産にこんなことを

の)お菓子の詰めあわせだったのだ。

て見えたのだ。 は**その顔が確かにニホンモモンガの顔と重なっ** コッとした顔だ(まさにSMILEだ)。私に 問題は、シンプルな、その表に描かれた、ニ

体まで書いてしまった。
をしたら胴体も書きたくなって、皮膜を広げたで線を加え、ニホンモモンガの顔にしていた。ク(いつもポシェットに入れて携帯している)

S MILE
TOKYO

HEE LA LITTLE SOMETHIN
FROM THE CITY FORMOR
LIGHT STAFF ASHLE ON YOUR FACE.
JOIN IN THE FUNI

羽田空港で運命の出合いをしてしまったお土産。思わずパッケージの表にモモンガを描いてしまった!

てきた

まく溶けこませるように(もちろんかなり強引なときもあったが)、モモンガを描くようにな ったのだ。かなり楽しかったことも隠さず言おう。 それからというもの、私は、出張でゼミ生たちに土産を買うたびに、箱の表のデザインにう

モモンガを、自然なタッチで描くことができるようなものかどうか」を基準の一つにするよう そして、**これは相互作用!** というべきか、土産を選ぶとき、「パッケージのデザインが、

になったのだ。

(まだまだ、あったのだが、写真を撮らなかった)である。 次のページに載せた写真が、それらの、モモンガが入りこんでしまったお土産のパッケージ

たものもある。なかにどんな土産が入っているのかほとんどわからなくなったものもあった。 なかには、パッケージのデザインの上下を、無理やり逆さにさせられてモモンガに変えられ

す」みたいなセリフを必ずつけ加えてきたものだから、学生たちも気を使ったのかもしれない。 モモンガの絵が入った包装紙や箱の蓋を壁に貼ってくれたり、やがて、額に入れて飾ってくれ そして、私は、こういった土産をゼミ室に置くとき、恩着せがましく「小林からのお土産で

はじめに













お土産のパッケージに描いたモモンガの数々。お土産を選ぶときに、モモンガが描きやすいかが基準になってしまった

たりするようになった。

れた。 装紙、について次のようなことを教えてく さんがいて、私の、落書きモモンガ土産包

「先生、一番人気はこれですよ」

モンガ土産包装紙、だった。けてあった、次ページのような、落書きモのは、中身が空になって、箱だけが立てかのは、中身が空になって、箱だけが立てかい。

ットが描かれていた。 上から滑空する、小さいモモンガのシルエとから滑空する、小さいモモンガのシルエ

ほーつ、これが一番人気か。ゼミ生たち

THE MINISTER AND SOUTH AND

学生たちが、"落書きモモンガ土産包装紙"を額に入れて壁に飾ってくれた

セージが届いた。

気分になって、もちろんゼミ生に直接言うこと 関心が薄れてきたような………。 産包装紙、が増えすぎたせいか、ゼミ生たちの の、落書きモモンガ土産包装紙、か、と、 なく寂しくもあり、メルヘンチックでもあるこ もなかなか目が nさんから、すぐにLINEで次のようなメッ トでさりげなくつぶやいてみたら、ゼミ生のT などできないので、ツイッターの個人アカウン ンガではなく、 この気持ちをちょっと聞いてほしい、という 人、感慨にふけったのだった。 でも、最近は、ちょっと、落書きモモンガ土 彼らの習性が描かれた、 高 6 単 にか わ į, いだけ いのモモ

ゼミ生たちの一番人気はこれ。横浜港にかかるベイブリッジから滑 空するモモンガだ。さすが、渋い。目が肥えている

vねー) 「みんな感謝していただいてますよ」(やさし

ちなみに、そんな出来事から少しして、大学祭があったのだが(私は出張で大学にはいなかった)、郷里の東北に就職したゼミの卒業生った)、郷里の東北に就職したゼミの卒業生ってきてくれ、私がいなかったので研究室のドアノブにかけていってくれた。

ん、Msさん。

モンガの商品」である。
さて、次は、「独り立ちしていった芦津のモ



小林ゼミの卒業生NeさんとMsさんが持ってきてくれたお土産。 私が不在だったので、研究室のドアノブにかけてあった

(このお酒に興味をもたれた方は、

着地が心配だ。

偏っているのは、このニホンモモンガ、

モモンガの姿勢の重心が少し左側に

ちょっとお酒で酔っていたりして

が商品化された話を二つしよう。の手を離れて活動しはじめたモモンガわれわれ芦津モモンガプロジェクト

めないので味わったことはないが)。 事な日本酒だ(私はほとんどお酒が飲 事な日本酒だ(私はほとんどお酒が飲 から販売された日本 である。四肢を広げて滑空する芦津 である。四肢を広げて滑空する芦津



地元芦津の日本酒のラベルに、滑空する二ホンモモンガが!

suwaizumi.jp <

ある。

これも、 ちなみに芦津の方たちは、かなり以前から「あしづの夢」という日本酒も製造されていて、 芦津渓谷のきわめて良質な水と、その水を恵みとして育った米からつくられた美酒で

ことが確認されている。夜の芦津の森を滑空するモモンガが、空気を切り裂く音が聞こえるか もしれない。心をすませば。あるいは、ほろ酔いの夢のなかで。 芦津集落のコミュニティーハウスのそばにある「ももんがの湯」に入って、゛モモンガ〟と のお酒を嗜むのもいいだろう。「ももんがの湯」のすぐ近くにある森にもモモンガがいる

である (写真は根付)。 房」から発売された、芦津のニホンモモンガの、スズでできたキーホルダーや根付、 二つ目の「独り立ちしていった芦津のモモンガの商品」は、 鳥取県の西にある「カエ 1 ル 工

アクセサリーを製作販売している会社である。博物館などからも多くの注文があるという。 と有名である)、 「カエル工房」は全国的に有名な(読者の方はご存じないですか? リアルなカエルを中心とした両生類、爬虫類などのフィギュア、 動物好きの間ではちょっ レプリカ、

解説が入っている。

芦津 乳に か れ、尾の形態もよく再現されていて……… **空姿勢を理にかなった体の構造**でつくっておら られる、と思った。 れたが、 れは逸品だ。 な気分でつくられたのかもしれない。 スズ製商品 その れたイラストと、 鋳型のモモンガを持ってこられ、 商品が入った袋に同封されてい モモンガの、 類、である。 :のモモンガたちの主食である 「カエルエ さすがに動物のことがよくわかってお かわいらしさも渋く表現し、 のなかではじめて手がけた 清水の舞台から滑空するよう 房 芦津の森についての簡単な が、 ピユー スギ ・ター る解説文には 意見を聞 ・シリ \dot{O} 葉 が描 が順ほ

滑

ズ



滑空する姿勢が理にか なった体の構造で、尾の形態もよく再現されている

(スズのモモンガに興味をもたれた方は、kaerukoubou.shop-pro.jpへ)

することにつながると思うのだ。 る。そうしてこそ、**自分の思いで生息地の保全に関心をもったり、なんらかの行動を変えたり** 形でも、それらを**身近に感じたり、彼らに思いを馳せたりする**ことがとても大切だと思ってい 人が見ていなければ、あるいは罰則がなければ………、ということになりやすいと思うのだ。 する考えを止めてしまうことになるのではないか。自分の外側からの力だけで規制した場合、 はいけない」といった考えだけを基本とする対策には賛同しない。もちろん場合にもよるが。 私は、それぞれの生物と可能な範囲でふれあったり、モモンガ日本酒やスズモモンガという そのやり方で進んでいくと、多くの人の、自らの意思で希少な生物の生息地保全をしようと 私は、野生生物の生息地の保全には、「ここは大切な生物がいるから、とにかく手を出して

ていくのが戦略的にも有効ではないだろうか。 野生生物との共存は、リスペクトや楽しみ、そして、彼らのための我慢、という形で達成し

うなれば、自分たちの利益になるから(!)彼らの生息地を保全しよう、というホモ・サピエ それに加えて、彼らの**生息自体が、経済的に利益になること、**これがまたとても重要だ。そ

ンスの心理的特性に合致した動きも生まれやすいからだ。

ん生まれてくることを私は願っている。 芦津のモモンガについても、**どんどん遠くへ滑空して** そういった意味でも、野生生物の習性や生息地を感じさせるような、魅力的な商品がどんど

いいじゃないか。

広がってくれることを願っている。

もちろん、本家「芦津モモンガプロジェクト」のモモンガグッズもこれからも頑張りまーー

しす。

本書を手にとってくださったみなさん、ほんとうにありがとうございます! 以上をもちまして、先生!シリーズ第一三巻の「はじめに」を終わらせていただきます。

二〇一九年二月一日

小林朋道